

# 令和 4 年度 県立下館第一高等学校自己評価表

目指す学校像	<p>【目指す学校像】          自主自立の精神を有し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財を育成する学校</p> <p>【育てたい生徒像】          様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力を持つリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒</li> <li>○ 豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒</li> <li>○ 未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた生徒</li> </ul>		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>「令和 3 年度県立学校等チャレンジ・プロジェクト」強化校の流れを継承し、「館一グローバルチャレンジー地域で輝くグローバル人財を目指すー」としてこれまでの事業を発展させる。国際社会や地域社会の課題を発見し、科学的視点から分析力・論理力・表現力を駆使し、主体的・創造的・協働的に課題解決に挑戦する資質や能力を育成することが目標である。担当校務分掌組織として、「組織マネジメント推進部」が担う。</p> <p>附属中学校完成年度に伴い、全職員の共通理解のもと、中高一貫教育校のメリットを最大限生かすカリキュラムの策定を、高校と附属中学校が協働して進めていく。</p>	<p>確かな学力の定着と進路指導の充実</p>	<p>①グローバル人財の育成を目指し、「令和 3 年度県立学校等チャレンジ・プロジェクト」強化校の流れを継承し、「館一グローバルチャレンジー地域で輝くグローバル人財を目指すー」事業を推進する。海外修学旅行、オーストラリアの高校・大学との姉妹校提携や連携協定を活用した文化交流・語学研修により、国際社会や地域社会で活躍できる生徒を育てる。</p> <p>②相互授業参観や職員研修会、附属中学校の授業参観、中高一貫校先進校視察、予備校等での授業研修を通じて、自立した学習者の育成を目指し、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善に取り組み、「思考力・判断力・表現力を伸ばす授業」を展開する。</p> <p>③日々の授業を大切にするとともに、土曜特別講座、夏季特別講座、平常課外、AC活動など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって学習意欲を喚起し、生徒一人一人の可能性を引き出す進路指導に努める。</p> <p>④国公立大学合格 90 名以上、難関国公立大学合格 20 名以上、難関私大合格 20 名以上を目指す。</p>	A
	<p>規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養</p>	<p>⑤学校内はもちろん、校外においても元気な挨拶を励行する。</p> <p>⑥自律の精神や自己抑制力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成に努める。</p> <p>⑦カウンセラーとの連携を充実させると共に、全教職員がカウンセリングマインドに立った指導を行い、心的理由での転退学者数をゼロにする。</p> <p>⑧基本的な生活習慣の確立に努め、各学年皆勤者 100 名以上を目指す。</p> <p>⑨規範意識の高揚を図るとともに、制服の正しい着用や礼儀正しい態度を育成し、校則違反者ゼロを目指す。</p>	B

別紙様式2 (高)

		⑩積極的に清掃活動に係わる雰囲気づくりを推進し、清潔な学習環境で落ち着いた雰囲気での学習ができる場の形成に努める。	
	特別活動の充実とコミュニケーション能力の向上	⑪キャリア・パスポートを活用し、特別活動の活性化を通して生徒相互の融和を図り、コミュニケーション能力を育て、自己肯定感を高めていく。 ⑫部活動は、学業との両立を図り、質の高い練習を通じて、全国大会など県外大会出場を目指す。(1年生の部活動加入率90%以上を目指す。) ⑬学校行事の改善充実を図り、中高一貫校としての新たな伝統の継承に努める。	B
	広報活動の推進と地域との連携	⑭ホームページを充実させるとともに、学校案内等を刷新し積極的な情報発信を行い、「社会に開かれた学校づくり」に努める。 ⑮附属中学校とともに学校説明会の充実を努め、広い地域の中学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。 ⑯学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開に努める。 ⑰進路だよりや学年通信などの紙媒体、メール配信やホームページなどの電子媒体を活用するとともに、進路講演会・学年PTA・PTA支部学習会等あらゆる機会を活用して、生徒・保護者に進路や学習に関する情報を提供し、連携を深める。	A
	いじめの未然防止と早期発見、早期解消の確立	⑱道徳教育や教育相談等を充実させ、いじめの未然防止と早期発見、早期解消に努める。	A
	中高一貫教育校としての高校教育改革	⑲附属中学校と高校が有機的に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組む。	A
	働き方改革の実現	⑳業務の見直しを進め、削減できる事業を各校務部及び学年で協議し、学校全体として1つ以上の事業を削減する。	A
三つの方針		具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする人財 ②豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる人財 ③未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた人財	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①自立した学習者の育成を目指した課題解決重視型の授業展開による、難関大学への進路実現 ②人権教育や道徳教育を積極的に推進し心の教育の充実を図り、豊かな人間性を基礎にした進路希望実現 ③探究活動を中心に、学校外部資源との連携や姉妹校との国際交流・語学研修を積極的に進め、グローバル人財としての素養を元にした進路希望実現	

別紙様式 2 (高)

		「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①基礎・基本を重視した日々の学習を継続的に進め、確かな学力を身に付け、発展的な学習へと意欲的に学習する生徒 ②挨拶を励行し、規律ある生活習慣を心がける自律に努める生徒 ③部活動や探究活動をとらして、多様な他者との協働に積極的に取り組む生徒		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	家庭学習の励行を推進する。	日常生活において自学自習の習慣を確立させ、積極的に教科に対して向き合う姿勢を作らせる。家庭学習を通し、課題に自主的に取り組ませる。 ③④	B	B ・確かな学力を身につけさせる。 ・多様な文章に接する機会を設ける。 ・「時代の要請」に流されず、普遍性につながる教養を身につけさせる。
			定期テストや模擬試験の事後処理として、間違ったところを確認し、また苦手分野を理解させ、今後の自学自習の目安を立てさせ、理解の定着を図る。 ③④	A	
		進学に対応できる読解力・表現力の身につく授業を実践する。	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすため、グループワーク、ディベートを授業の中で積極的に取り入れる。また、iPadを活用し、理解の共有を深める。 ②	B	
			年間計画に基づく計画的な授業を実践し、生徒に入試に必要な実力を付けさせるとともに、教養としての国語の力を高めさせる。 ③④	B	
	地歴・公民	新課程に示された、多面的・多角的な考察、構想力、効果的な説明、議論する力の育成に努める。	新聞記事、記録映像、教科書のQRコード、副教材等を効果的に活用し、生徒の興味関心を喚起する授業展開を実践する。 ②③	A	
			総合・探究科目、公共など、新科目の指導法・評価法について研鑽・協議する。 ②	C	
			新教育課程研修協議会など各種研修会に参加し、研修結果を教科内で共有し、授業改善に役立てる。 ②	B	
			生徒の自発的・能動的な授業への参加を促す学習法を開拓する。 ②③	A	
		時事、論述問題に対応できる考察力、構想力を育成する。	ニュースや新聞など、リアルタイムな題材を考えさせる。 ②③	B	
			互いの意見を発信・議論する力(ディベート力)を養う。 ②	B	
自ら進んで学び考える学習習慣の育成に努める。	自ら課題を設定し、考察、発信できる学習習慣の構築、メディアリテラシーの能力育成に努める。 ②	B			
数学	基礎学力の向上を図る。	授業の開始と終了時刻を厳守する。 ③⑩	A		
		年間学習計画に沿うよう交換、補填で授業時間の確保に努める。 ③④	A		
		章末テスト等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは、補習を実施する。 ③④	A		
		学習内容を定着させるため、休み時間、放課後等に質問を受ける体制を整える。 ③④	A		
	家庭学習習慣の定着に努める。	課題に取り組みせ、家庭学習の習慣をつける。 ④	B		
	自ら学ぶ意欲を育めるよう、授業の改善に努める。	授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。 ③	A		
		学習実態調査に基づき、生徒の実態に即した指導法を工夫改善する。特にグループワークやグループディスカッションなど主体性のある授業を展開する。 ②③	B		

別紙様式 2 (高)

		学年を超えて教科内で指導内容を話し合い、授業公開を利用して、授業内容・指導法を研究する。特にICT機器を活用した授業を研究する。 ②	B		
理科	分かりやすい授業、興味関心を喚起する授業を提供する。	時事ニュースや最先端の研究テーマを取りあげ興味関心を喚起する。 ①②③	B	B	・授業展開を工夫し、実験、生徒同士の話し合いを採り入れた授業づくりを行う。 ・ICTをより活用し、表現する力の向上を図る。 ・指導法、評価方法について、より協議を行う。
		教材・発問の工夫や実習助手の協力による実験の実施、更に効果的なコンピュータを活用した授業を展開する。 ①②③	A		
		資料集を活用し、身近な自然現象に関連をもたせる。 ②③	B		
	自然現象に関する問題提起をし、理科的な思考や発想を身につけさせる。	生徒同士での話し合いやグループ活動などを活用して、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくりを行う。 ①②③	B		
		単元ごとに関連した実験観察を実施し、考察力を養う。 ②	B		
	進学に対応できる思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を目指す。	受験頻出問題を単元ごとに取り込み、演習時間を確保する。 ③④	A		
		理科に関連する研修へ積極的に参加し、各自研鑽に努める。 ②	A		
生徒個々の習熟度に応じた指導をする。	課外の実施、学習内容の深化のため適宜質問応答の時間を設ける。 ②④	A			
	基礎力の身につけていない生徒に対し、個別指導等を実施する。 ③	A			
保健 体育	ICT機器を活用した保健の授業を展開する。また、授業を通じ健康観や人生観の向上を図る。	単元目標を把握し、教員間で情報を共有しながら授業計画をすすめられるようにする。 ②③	A	B	・ICTの活用方法を、もっと試行錯誤を重ねて効果的に行っていく。 ・体力テスト結果の割合が減少してしまっただけで、再度運動量の確保や体力向上策を講じて、結果の向上を図る。 ・スポーツを楽しむ手段として、「やる」だけでなく「見る」「分析する」「指導する」等様々な役割を経験させて、生涯にわたって親しむスポーツを確立させる。
		最新のデータや資料を収集し、ICT機器を活用したペアワークやグループ学習の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を展開する。 ①②③	B		
	現代社会の中で、心身共に健康に過ごしていく為の知識を習得し、実生活に活かす。	生涯にわたって健康作りの基礎となる知識を身に付けさせる。 ②⑧	A		
		毎時間保健ノートの問題に取り組む。また、定期的に保健ノートの確認を行い、知識の定着を図る。 ②③	A		
	基礎体力の向上を図りながら、種目ごとの特性を理解し、スポーツの楽しさを覚えることで、生涯にわたって運動に親しむ習慣を定着させる。	年間を通じて、毎時間補強運動や体づくり運動の時間を設け、体力向上を図る。 ②⑧	B		
		ゲームの進め方やルールを工夫し、生徒の実態にあわせ生徒の運動量を確保する。 ⑧⑨	B		
		各運動領域で、その種目の経験者を分散してグループを作り、生徒の技術向上を図る。 ②⑥⑪	B		
各グループの技量や技術のバランスを考え、生徒が楽しむことのできるゲームを展開する。 ⑥⑪⑱	A				
運動・スポーツを通じてルール遵守の習慣を定着させる。	スポーツにおいて生徒自ら審判を経験することで、ルールを遵守することを学ぶ。 ⑥⑨	B			
芸術	授業研究に取り組み、指導法の工夫・改善を図り、生徒が芸術についての学びを深められるようにする。	豊かな想像力や感受性を養うため、個別指導も念頭に置いた、個性を尊重する指導を行うとともに、日本の伝統的な芸術に触れ体験できる授業を展開し地域社会で活躍できる生徒を育てる。 ①②③	A	A	・表現活動だけでなく、理論的な授業においても主体的に取り組めるような授業の工夫をする。 ・芸術系大学進学希望者への受験対策を充実させる。
		生徒が主体的に取り組める教材を精選し、グローバル社会で活躍していけるような芸術的素養を身に付けさせ、中高を通して芸術探究のできる授業を展開する。 ①②③④⑱	A		
	さまざまな表現・鑑賞活動を	さまざまな表現活動を実施しながら、コミュニケーション力を高め、仲間と共に協働的に	A		

別紙様式 2 (高)

	通し、生涯を通じて芸術を愛好する生徒を育成する。	活動できるグループワークを多く取り入れる。①②③⑥⑦⑬⑱ 鑑賞活動等を通じ、地域の伝統芸能や芸術を体感し、芸術のよさや楽しさを感じさせることにより、深い学び・対話的学びを実現させる。①⑤⑥	A	・他教科と連携した授業の充実を図る。	
	生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。	芸術系大学の進路希望者に対して、実技等試験の対策を行い、進路希望の実現を目指す①③④ 放課後や夏季課外後に時間を設け指導の徹底を図る。③④⑫	B B		
	環境整備に努める。	表現活動に応じた、教室環境の整備に努める。⑩	A		
英語	下館一高の英語教育をつくる(第1期)。	Can-Do リストの改良を図り、教員間、教員と生徒間で学習到達度目標の共通認識を図る。②③ 計画的かつ持続可能な評価方法の研究と実践を行う。②③ 教材の共通化を図り、指導法の研究とノウハウの蓄積を行うために相互授業参観を積極的に行う。② 中高6年間を見通した効果的な指導体制づくりを進める。⑱	B B B C		B ・中高6年間を見通した指導を考えるために、中高間での相互授業参観の機会を設ける。 ・新課程の指導法や教材の活用、評価法等の実践を学年間で引き継ぐ。
	CEFR-J A2.2以上の生徒数：1年生75名、2年生150名、3年生180名を目指す。	生徒が各技能の向上に目標をもって取り組めるよう、日々の授業の中で働きかけ、支援する。②③ 言語活動やパフォーマンス課題を通して、生徒の学習到達度を把握し、適宜助言をする。②③ 英検等の外部試験の受験を促し、面接や英作文の練習を支援する。④	B A A		
	自律的に学習を進められる生徒を育成する。	ICTの活用をしながら家庭学習の見取りを行うとともに、学習を振り返る機会を定期的に設ける。② 日々の授業や課外等を通して、個々の到達度や適性に合った学習支援を行う。③④	A A		
家庭	暮らしに関わる基礎的・基本的知識と能力を育てる。	実生活に生かすため、実験・実習等の実践的学習を多く取り入れた授業を展する。②③ 学習ノートの提出や単元テスト等で学習の理解度を確認する。②③	B A	B ・ICTを活用した授業を工夫する。 ・実験実習授業の充実を図る。 ・他教科との連携授業の充実を図る。 ・日常の暮らしを意識しホームプロジェクト学習につなげさせる。	
	生活における問題を発見し、課題を設定して解決のために思考・判断できる生徒を育てる。	ワークシート・ICTを活用し、思考・判断・表現を把握する。② 家庭に関する新聞記事等を活用し、ホームプロジェクト学習(課題解決型学習)につなげる。②	A B		
	自らの暮らしをデザインしようとする生徒を育てる。	学習環境を整え、安全かつ充実した実験・実習を展開する。生活を総合的にマネジメントする力を養うために、暮らしの問題点をみつけ、学習ノートに記入させ定期的に確認し、ホームプロジェクト学習につなげる。②③	B		
情報	座学を通じて、情報に関する科学的な思考力、判断力を伸ばす。	情報社会の仕組みについて興味を喚起し、共通テストに対応できる知識を習得する授業を行う。① Google for Education等のツールを積極的に活用し、グループワークの際に生徒が合意形成の手法を学ぶ助けとする。⑥⑬⑱	B B	B ・共通テストに向けた学習教材の工夫をする。 ・タブレット端末を活用したグループワークの授業改善を	

別紙様式2 (高)

	実習を通じて、情報技術を活用する基本的な技能と表現力の向上を図る。	実技実習について内容ごとに提出物を課し、達成度を確認して指導に活かす。 ②③	A		進める。 ・今年行った実技実習内容を見直して次年度さらに効率よく学習できるよう改善する。
		PC室の環境の改善や利用法の工夫を行い、より生徒が学びやすい環境を作る。 ②③	A		
	正しい情報リテラシーを身につけさせる。	現代に即した情報モラルの習熟を図り、知識・理解をレポート等により確認する。 ①⑱	B		
教務部	特色ある教育課程の編成及び運営に努める。	各学年・各教科・各校務部との連絡調整を行い、将来を見据えた、より良い教育課程や時間割の編成や運営に努める。 ①②	A	A	・ICT機器の積極的活用や教育課程の編成など、これまで積み重ねてきたものをさらに発展させることができた。また、ノーチャイムや有識者を招いての研修など教職員の意識を高める取り組みにチャレンジすることができた。 ・来年度から試験の名称も変更し、新教育課程で求められる生徒の資質や能力を高めていけるような取り組みを進めていきたい。
	授業時間の確保に努める。	計画的な運用により現行のカセットシステムの利点を最大限に活かし、授業時間の偏りを減らすための曜日変更や行事の調整を行い、バランスのとれた学習進度を維持する。 ③	A		
		日々の授業変更を管理し、適切な時間割を立案する。授業の開始と終了時刻を厳守し、1時間の授業にこだわることで、生徒・職員ともに「授業を大切に」意識の徹底を図る。また、授業時数のバランスの確保に留意し、特別時間割などの調整を行う。 ③	A		
	各校務部・各学年・各教科などとの連携を密にし、円滑な学校運営を図る。	「チーム学校」の考えのもと、附属中・各校務部・各学年・各教科などとの連絡を密にし、各行事の日程や内容などの情報収集に努め、その円滑な運営や改善を図る。また、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組み、働き方改革につなげる。 ⑪⑳	B		
	定期考査などの円滑な運営を図る。	定期考査・到達度テストなどの企画立案、時間割の作成とともに、校務支援システムを使用し、円滑な運営に努める。各教科・学年からの要望も取り入れ、結果が効果的に生徒に還元され、授業で培った力がより正しく評価されるように、テストの在り方や内容を十分検討していく。 ③	A		
		観点別学習状況評価について理解を深め、生徒の学習実態を反映するように、評価方法の工夫や在り方を更に研究する。大学入学共通テストに関する情報収集、共有に努め、授業への反映を図る。 ②③	B		
	生徒の進路希望実現のための情報共有と活用できる環境を整備する。	学習進路部と連携して、大学情報等のデータ更新などのサポートを心がけ、生徒の進路計画を立てやすくする。 ④	B		
	ICT環境を整備し、校務や校外への情報発信の効率化を図る。	公文書等の処理システムの円滑な運用をサポートする。また、ホームページ及び館一メールを通じて、行事連絡や非常時の対応を迅速に伝え、近隣中学校や地域からの理解と信頼を得られるように工夫する。ICT活用のノウハウを教員間で共有できるよう、関係校務部と連携する。 ⑭⑳	A		
	個人情報および構内情報システムのセキュリティを確保する。	ネットワークに関わる情報の提供に努め、教員間の情報格差をなくす。 ⑳	A		
		共有で使用する外部記録媒体の管理をする。 ⑳	A		
成績処理用にクローズされた校内LANを併せて整備し、管理する。 ⑳		A			
校内LANのセキュリティ管理をする。サーバー等を整備し、個人データの管理を徹底する。 ⑳		A			

別紙様式 2 (高)

生活部	心の教育の充実に努める。	挨拶の励行とマナーアップの推進に努める。特に挨拶については、毎月の生活目標を示したプリントを教室掲示し、さわやかマナーアップ週間の登校指導と連動させ継続的に指導していく。 ⑤⑥	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立へ向けた取り組み、特に挨拶の励行については徹底していきたい。</li> <li>・自動車学校で実施していたバイク講習会は、新型コロナ感染予防のため3年間実施できていない。避難訓練なども一か所に全校生徒が集まることを避けるために、避難経路の確認や教室内で災害時の対応についての動画視聴を行った。今後も行事内容の見直しをしていきたい。</li> <li>・年度初めにスマホ家庭のルールや、基本的な生活習慣についても一度確認させ、意識の高揚を図りたい。</li> </ul>
		問題行動の予防や早期対応に努める。いじめなどの実態把握をするため、定期的にアンケートを実施する。 ⑥⑱	A		
		スクールカウンセラーと連携し教育相談の充実に努める。教職員対象のカウンセリング研修会を実施し、全ての教職員で心の指導にあたる体制づくりをする。また、カウンセリング・サポート係が中心となって、心の問題を抱える生徒に早期に対応する。 ⑥⑦⑱	A		
	服装をきちんとさせるなど、規範意識の向上に努める。校則違反者0を目指す。	学年・担任・授業担当者による指導や呼びかけを徹底する。毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導、集会時における生徒への呼びかけを通して、服装をきちんと着用させ、規範意識の向上に努める。 ⑤⑥⑨	B		
		基本的な生活習慣の確立に努める。各学年皆勤者100名以上を目指す。	欠席・遅刻生徒を減らすために、各学年、担任と協力体制をとって指導にあたる。怠学による遅刻の多い生徒に対しては、生活部、学年と協力体制をとって継続的に指導していく。 ⑧⑩		
	毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導などにおいても、時間の厳守を呼びかけ、怠学による遅刻生徒の減少に努める。 ⑤⑧		A		
	安全で有意義な学校生活の実現に努める。	登校指導や自転車・バイク点検の際に、交通マナーアップなどの安全指導を実施する。 ⑥⑨	A		
		教室を離れる際は、教室の施錠を徹底する。自転車置き場の巡回も必要に応じて実施する。 ⑨⑩	A		
		交通安全委員を中心にPTA・警察・地域社会と連携しながら交通安全キャンペーンやバイク講習会を実施する。 ⑤⑨⑱	B		
	ケータイ・ネットの安全利用の充実に努める。	ケータイ・ネットの安全利用を呼びかける。また、集会時においても危険性を訴えていく。スマホ利用に関する実態調査の結果を基に、睡眠時間・学習時間確保のため、学習進路部と連携し使い方について指導していく。 ⑥⑨	B		
	健康教育を推進し、心身ともに健康に生きるための知識と能力を育て、健康に対する意識の高揚を図る。	新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症の予防や啓発に努める。 ⑩	A		
		性に関する講演会・薬物乱用防止教室を、外部講師を招聘し1年次に実施する。 ⑬	A		
	健康で安全な学校環境の整備及び美化に努める。	月1回のペースで、生活部職員が校内を巡視し、清掃用具の破損や不足を確認して、清掃が滞りなく行えるように環境を整備する。 ⑩	A		
		避難訓練を通して、非常時にも冷静沈着な行動を取れるようにする。 ⑩⑬	B		
		クリーンアップ作戦を通して、地域の美化対策に協力し、また清潔な環境整備の重要性も指導する。 ⑩⑬	A		
毎日の清掃活動を指導し、清潔な学習環境整備に努める。 ⑩		A			

別紙様式 2 (高)

		保健室の適正使用を指導する。 ⑦⑧	A		
特別活動部	特別活動を通して、豊かな人間性を養う。	学業との両立を保ちつつ、部活動の活性化を図り、部活動参加率と満足度 80%以上、県外大会出場を目標に充実した活動を目指す。 ⑫	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属中学生が全校行事に参加しやすいよう意見を吸い上げ考慮する。</li> <li>・自主的な活動が行えるよう学校全体で協力し、生徒会や執行部への過負担とならないように配慮する。</li> </ul>
		芸術鑑賞会において本物の舞台芸術を体験させ、想像・創造力の充実を図る。 ⑬	A		
	中学・高校の連携した行事の改善を図る。	附属中学校での特別活動の内容を検証し、中高一貫を含めた充実した活動を通して多様なコミュニケーション能力の育成を目指す。 ⑬⑱	B		
	学校行事を充実させる。	生徒会と執行部が中心となり、生徒の自主的かつ充実した活動を通して、計画を立てて実行する力と、生徒一人一人のコミュニケーション能力の育成をはかり、より良い人間関係を構築しする。 ⑪	B		
	キャリア教育の一環としての特別活動を位置づける。	キャリア・パスポート(手帳等)を活用し、各行事や部活動などにおいて、生徒一人一人の振り返りを通して、人生について考える機会を設ける。 ⑪	B		
学習進路部	生徒の学力向上を支援する。	生徒の実態に応じて課題の精選を行い、ホワイトボードを利用し課題の可視化を行う。 ③④	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化する入試形態に対応する指導法の研究、及び全職員と情報の共有をする。</li> </ul>
		定期テスト・外部模試・自学自習時間調査等の結果を管理しデータの有効活用を図る。 ③④	B		
		全生徒の学力向上を目指し、課外(通常・夏季)・土曜特別講座を計画し、生徒の学習活動を支援する。 ①③④	A		
		各学年で「学習アドバイス」を発行するとともに、生徒の自学自習力の向上を図る。 ①③④	A		
		定期考査前指導を組織的に行い、欠点者ゼロを目指す。 ②③	A		
	教員の授業力及び進路指導力を高める。	校内授業公開、授業アンケートを行うとともに、長期休業中の予備校による教員研修を奨励し、新しい学力観に基づく授業改善に資する。 ②③④	B		
		進路指導に関する研究会等に積極的に参加し、成果を他の教員に還元する。 ②③	B		
		卒業学年による進路報告会を開き、3年間を見据えた進路指導を行う。 ③④	A		
	確かな学力に基づいた進路実現を支援する。	進路相談を実施し、生徒に適切な進路情報を提供するとともに、生徒が進路情報を身近に閲覧できる環境の整備に努める。 ③⑰⑱	A		
		外部模試を計画的に実施し、その結果及び動向を把握し、生徒の進路選択に資する。 ③④	A		
		難関国公立大 20 名以上を含む国公立大 100 名以上、難関私大 (GMARCH 以上) 20 名以上の合格を目指す進路指導体制を整える。 ①③④	A		
	キャリア教育の充実を図る。	生徒の進路希望を把握し、各学年に適切な進路情報を提供し、進路通信や進路の手引きの発行を通して、生徒や保護者にも進路情報を効果的に発信する。 ③⑭⑰	B		
		各学年で進路行事(進路講演会・紫西プレカレッジ・企業見学・大学見学会)を計画的に行うことで、学問への興味関心を喚起し、進学への意識を高める。 ③⑰	A		
		医学部進学支援を行う。 ③④	A		
		図書館の環境を整え、資料・	中学生向けの図書の充実を図り、展示・装飾・配置レイアウトを工夫する。 ③⑬⑱		

別紙様式2 (高)

	情報を収集し、提供する。	探究的な学習につなげられるような資料・情報を収集し、提供する。 ③⑬⑰	A		
		生徒主体の図書委員会活動を行う。 ③⑥	A		
	適切な役割分担	各係の連携を図るとともに、各係の仕事内容を吟味・整理し、緊急の事態や新しい課題に対応できる態勢をつくる。 ⑱⑳	B		
渉外部	P T Aの活動を充実させ、諸行事への保護者の参加率を高める。	P T A総会及び支部総会などを充実したものにする。 ⑯	B	B	・生徒指導委員会や大学見学会が、コロナ感染症対策のため実施することができなかった。今後実施形態も含め、検討していく必要がある。
		校内外で開催される各種P T A会合に積極的に参加し、多くの情報や資料を収集し、今後のP T A活動に活かすように努める。 ⑰	B		
	学校と家庭の連携を図り、協力体制を深め、生徒の学校生活を充実したものにする。	各支部の活動について、適切な支援を行う。 ⑰	B		
		生徒指導委員会や学年P T Aなどを通して、保護者と職員間の情報交換を行い、共通理解の下に、生徒の生活上の変化や問題点を把握し、指導の協力体制を確立する。 ⑰	C		
渉外部	広報活動を充実させ、情報の公開に努める。	大学見学会などを通して、保護者に進路に関する情報を提供し、連携を深める。 ⑰	C		
		広報委員会の活動を通して、保護者の活動を充実させるとともに、P T A及び生徒の活動についての情報の公開に努める。 ⑯	B		
組織マネジメント推進部	「総合的な探究の時間」を通して学びに向かう力・人間性の寛容。	課題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成する。 ①	B	B	・外部研修会、研修視察等を行うことで、県内においては先進的に活動を行えている。その分、仮説を立てる難しさ等課題も明確になってきているため、さらにブラッシュアップしていきたい。 ・タブレットを用い、授業支援ツール（ロイロノート、各Googleアプリケーション、ブリタニカオンライン、WEB版辞書など）多様なICT教育が充実してきている。今後、端末管理も充実させて行く予定である。 ・ポスター、チラシ、パンフレット、新聞掲載など充実した活動を行えた。
		課題の設定・情報の収集・整理分析・まとめ・表現など探究の過程で、自己の在り方生き方を考えさせる。 ①②	B		
	「館一グローバルチャレンジ」の事業を充実させ、新たな魅力の創出。	国際交流事業を継続し、国際感覚をもったトップラーナーを育成する。 ①	B		
		筑西市・地域企業・教育機関と連携を図り、地域社会に貢献できるトップラーナーを育成する。 ①	B		
		大学や研究施設との連携した科学体験、科学の甲子園に参加し、広い視野をもったトップラーナーを育成する。 ①	A		
	I C T教育の促進、情報活用能力の育成。	授業の中で積極的にI C T機器を活用し多様な学習活動の一助とする。 ①	A		
	広報活動の活性化。	学校活動の魅力を発信し、志願者数を増やす。 ⑮⑰	A		
1学年	開かれた学校づくりを目指し、教育活動の公表に努め、保護者及び地域とのコミュニ	メール利用による学校情報発信のための環境整備とP Rを図り、館一メールの登録・更新を推進する。直感的でわかりやすいHPの構成やデザインを検討するとともに、本校の教育活動を外部に発信するツールとして積極的にHPの更新を図っていく。 ⑭	B	B	・家庭学習や自主学習へのさらなる意識の高まりや自覚を促し、常に「自ら学ぶ」とい

別紙様式2 (高)

	ケーションの向上を図る。	学校案内、シラバス、様々なパンフレットの作成を通し、目指す学校像等を地域や小中学校に広く発信していく。 ⑭⑮	B	う積極的な姿勢を身につけさせる。 ・行動すべてに、先輩としての自覚を持たせ、後輩の模範となるよう心がけさせる。 ・新聞を積極的に読ませ、社会問題への意識の高まりを図る。
		教員は、ALを取り入れた教授・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業について自身の研鑽を重ねる。 ②③	A	
	基本的な生活習慣の確立を図る。	挨拶の励行に努め、遅刻・早退・無断欠席などの指導を徹底する。 ⑤⑧⑨	A	
		服装・頭髪の指導を徹底し、制服を正しく着用させる。 ⑨	B	
		清掃をきちんと行わせて、学習環境を整えさせる。 ⑥⑩	A	
		早めに登校し、始業までの時間を学習をすることで、朝から落ち着いて過ごせる環境をつくらせる。 ⑥⑧	B	
	進路目標を決定する。	探究活動、行事(紫西プレカレッジ・企業訪問等)、個別面談などを通して、適正な文理選択及び進路選択につなげる。 ①③	A	
		AC活動などを活用することによって、高い進路目標を設定し、挑戦させる。 ①③④	B	
		新聞を読むことを促し、社会全般に目を向けるように促し、多くの社会問題に興味を持たせる。 ①	B	
	コミュニケーション能力の育成を目指す。	部活動・委員会活動・学校行事などに積極的に参加させ、コミュニケーション能力の向上を図れるように指導する。 ①⑪⑫⑬	A	
		生徒が生き生きと活動できるような学年行事を企画、実行していく。 ①⑬	A	
	いじめや不登校生徒への早期対応をしていく。	定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消に努める。 ⑱	B	
		各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑦⑱	A	
道徳教育や学級活動を通して、他者を尊重する態度を養う。 ⑥⑱		B		
2 学年	学習習慣の改善と基礎学力の向上を図る。	授業に集中して取り組ませるとともに、予習・授業・復習を柱とした学習方法とその習慣を身につける。 ③④	B	B ・生徒への声かけなどを通して学習を習慣化させるとともに、さらなる学習時間の確保を図る。 ・最上級生としての自覚を持たせ、部活動や委員会活動、学校行事において中心となって活動し、少しでも良い形で後輩達へ引き継いでいく。 ・教室内の環境整備を徹底する(放課後の清掃・授業後の黒板消し等)。
		手帳などを活用して自己管理を行うことを指導し、自学の習慣化を図り、1日3時間以上の自学時間をつくる。 ③④⑧	B	
		教員は、ALとICTを取り入れた教授・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業を行うように努める。 ①②③④	A	
	進路目標を決定する。	HRや探究学習、行事(夢ナビ・進路講演会等)などを通して、具体的な進路を決定する。 ①③④	B	
		課外活動などを活用することによって、生徒一人一人に応じた適切な指導を行い、高い進路目標への挑戦を促す。 ①③④	A	
	基本的な生活習慣の確立を継続する。	挨拶を励行し、遅刻・無断欠席などの指導を徹底する。 ⑤⑧⑨	A	
		服装・頭髪の指導を徹底し、制服を正しく着用する。 ⑥⑧⑨	A	
		清掃をきちんと行い、学習環境を整える。 ⑥⑩	B	
		始業までの時間で読書や小テストを実施することで、落ち着いて過ごせる環境をつくる。 ⑥⑦⑧⑩	A	

別紙様式2 (高)

	コミュニケーション能力の向上を目指す。	部活動や委員会活動、学校行事等に積極的に参加し、学校の中堅としての役割を意識し、コミュニケーション能力の向上を図る。 ①⑪⑫⑬	B		
		広島・京都への修学旅行を通して、平和学習の重要性や広い視野に立って物事を見ることを学び、将来地域社会で生かせる社会力やコミュニケーション力の礎を作る。 ①	A		
	いじめや不登校への早期対応をしていく。	定期的な調査により、いじめを早期発見し、いじめが原因による不登校者0を目指す。 ⑱	A		
		各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑦⑱	A		
	道徳教育を通して、他者を尊重する態度を養う。 ⑥⑱	B			
3 学年	学習習慣の確立と基礎学力の定着を徹底する。	予習復習を徹底させ、授業に集中して取り組ませる。 ③④	C		B
		手帳を使って時間管理の徹底を図り、1日平均5時間以上の学習時間を確保させる。 ③④⑧	C		
		朝学習の習慣化と自主化を実現させる。 ③⑧⑩	B		
		夜7時まで学校を開放し、時習館・紫西スタディールームの使用を促すことで、学習時間の固定化を図る。 ③	B		
		教員は、AIを取り入れた教授法・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業を行うように努める。 ①②③④	C		
	進路目標を達成する。	HRや総合学習、進路行事などを通して、具体的な進路を決定させる。 ①③④	B		
		AC活動の活用、多様な課外の実施、小論文指導等を通して、生徒一人一人に応じた進路指導を行い、高い目標への挑戦を続けさせる。 ③④	C		
		個別面談を通して、生徒の進路希望及び学習状況を把握する。 ③④	B		
		教員間での情報共有に努め、志望校検討会を複数回行い、変化する大学入試に対応できる体制を作る。 ①②③④	B		
	基本的な生活習慣の確立を継続する。	挨拶を励行させ、遅刻・無断欠席等の指導を徹底する。 ⑤⑧⑨	C		
		服装・頭髪等の指導を徹底し、制服を正しく着用させる。 ⑨	C		
		清掃をきちんと行わせて、学習環境を整える。 ⑥⑩	B		
		朝の時間に学習に取り組ませ、その習慣化と自主化を図る。 ③⑥⑧⑩	B		
	コミュニケーション能力とリーダーシップ能力の向上を目指す。	部活動・委員会活動・学校行事等に積極的に参加させ、最上級生としての自覚を持った行動をするように指導する。 ⑪⑫⑬	B		
		HR活動等において、他者と積極的に関わり、協力することの大切さを理解させる。 ⑪	B		
	いじめや不登校生徒へは早期対応をする。	定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消に努める。 ⑱	B		
		各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑦⑱	B		

※ 評価規準：A：非常によいので努力を続ける B：よいので更に努力する C：ふつうだが今一步の努力である D：やや不十分で努力を要する